ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

Tislelizumab+5FU +CDDP療法 <<初日に5日分調製>>

3 週毎 コース予定

疾患名 食道癌

主治医

指導医

HBs抗原()、HBs抗体()、HBc抗体()、HCV抗体()

スケジュール

		day1	day2	day3	day4	day5
テビムブラ(チスレリズマブ)	200 mg/body	↓				
フルオロウラシル	持続 4000 mg/m ² /5日 【800 mg/ m ² /日】	↓				→
シスプラチン	80 mg/m ²	↓				

- 【注意】
- * シスプラチン投与時は1日の尿量が3000 mL以上になるよう、化学療法前日より輸液を行う
 - * シスプラチン、チスレリズマブはポンプを使用しないこと
 - * 他剤使用時は、チスレリズマブ投与前に血管確保用生食にてフラッシュすること
 - * チスレリズマブはインラインフィルター(0.2または0.22 μm)を通して投与すること
 - * チスレリズマブは初回投与時は60分以上かけて投与し、初回の忍容性が良好であれば2回目以降の投与時間は30分まで短縮できる。

通常量より減量する際の理由

(レジメン)

Day 1

- ① 生食 500 mLで血管確保・維持(20 mL/時間)
- ② テビムブラ 200 mg + 生食 50 mL 点滴静注60~30分
- ③ 生食 500 mL + L-アスパラギン酸K 10 mEq + 硫酸Mg補正液 4 mEq
点滴静注120分(250 mL/時間)
- ④ Day 1~Day 6 フルオロウラシル + 生食1000 mL

側管より輸液ポンプにて点滴静注約120時間(10 mL/時間)

Tislelizumab+5FU+CDDP療法<<初日に5日分調製>>

- ⑤ パロノセトロン0.75 mg+アロカリス235mg+デキサメタゾン9.9 mg+生食100mL 点滴静注30分
- ⑥ シスプラチン + 生食 250 mL 点滴静注120分(250 mL/時間)
 - * 生食 250 mLをバッグから前もって抜く
- ⑦ マンニトールS 300 mL 点滴静注 30分(600 mL/時間)
- ⑧ 生食 500 mL + L-アスパラギン酸K 10 mEq + 硫酸Mg補正液 4 mEq
 - 点滴静注 120分 (250 mL/時間)
- ⑨ 生食 500 mL 点滴静注 120分 (250 mL/時間)
- ⑩ オランザピン 5 mg 1錠 1×タ 内服(※糖尿病患者は禁忌)
- ⑪ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間
- ⑫ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間
- ⑬ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間

Day 2-4 オランザピン 5 mg 1錠 1×タ 内服(※糖尿病患者は禁忌)

Day 2- 5

- ① デキサメタゾン6.6 mg (2 mL) + 生食20 mL 側管静注
- ② ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間
- ③ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間
- ④ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間
- ⑤ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間

	コース				
	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5
月日	/	/	/	/	/
テビムブラ 開始時刻	↓				
フルオロウラシル 開始時刻	↓	→	→	→	→
シスプラチン 開始時刻	↓				
確認					

Tislelizumab+5FU+CDDP療法<<初日に5日分調製>>

	コース				
	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5
月日	/	/	/	/	/
テビムブラ 開始時刻	↓				
フルオロウラシル 開始時刻	↓	→	→	→	→
シスプラチン 開始時刻	↓				
確認					

	コース				
	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5
月日	/	/	/	/	/
テビムブラ 開始時刻	↓				
フルオロウラシル 開始時刻	↓	→	→	→	→
シスプラチン 開始時刻	↓				
確認					

	コース				
	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5
月日	/	/	/	/	/
テビムブラ 開始時刻	↓				
フルオロウラシル 開始時刻	↓	→	→	→	→
シスプラチン 開始時刻	↓				
確認					